



森谷局長からの管内概要説明を熱心に聴く大使

三月六日、二〇二五年度「ミス日本みどりの大使」に選出された佐塚こころ氏が中部森林管理局に来訪されました。

佐塚氏は長野県佐久穂町のご出身、今回、長野県知事・佐久穂町長への表敬訪問の合間を縫っての来訪でした。

森谷局長による中部局管内の概要説明を受けた後には、大使としての活動への意気込みを話されました。その後に設けられた局内若

【総務課・資源活用課】

二〇二五年度
「ミス日本みどりの大使」来訪



間伐材で製作されたハープを手に大使へ説明

意見交換後は善光寺へ向かい、平成の大修理により、檜皮葺きから建立当時の天然サワラの桷葺へ改修された善光寺山門を見学しま

手職員との意見交換では、七名の職員が担当する仕事等について説明を行いました。七名からの説明後、時間が限られる中、全ての職員に対して質問を返す姿に「みどりの大使」としての矜持を感じました。



自作の「木の花」を手に語る大使



「みどりの大使」佐塚氏を囲んで記念撮影

した。山門では、桷葺をより近くで眺めながら、村上森林整備部長から、材料は国有林から供給されたことなどの説明がありました。その後、過去の善光寺御開帳の際

「みどりの大使」は、六名が選出される「ミス日本」(グランプリ・準ミス・水の天使・海の日・ミス着物・みどりの大使)の中で最も活動日数が多いそうです。佐久穂町が独自に進めてきた森林環境教育活動に、小学校の頃から参加し、高性能林業機械の操作も体験している佐塚さんの今後の「みどりの大使」としての活躍に期待しています。

に利用された回向柱などを見学し、中部森林管理局訪問の行程を終了しました。



善光寺山門にて桷葺の説明を受ける大使 (写真右)



大正時代頃の木曾合の御料林における小谷狩風景。裏木曾でもこれに近い風景が見られたと思われる。

「山落とし」（第四十四回参照）の場合は山間部の限定された区間で行われ、全ての運材施設を利用して川の本流へ木材を運ぶ「小谷狩」ですが、裏木曾の場合は付知川下流や木曾川本流まで距離がありますので結構な長丁場となります。

「裏木曾」その十一 小谷狩③

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

シリーズ

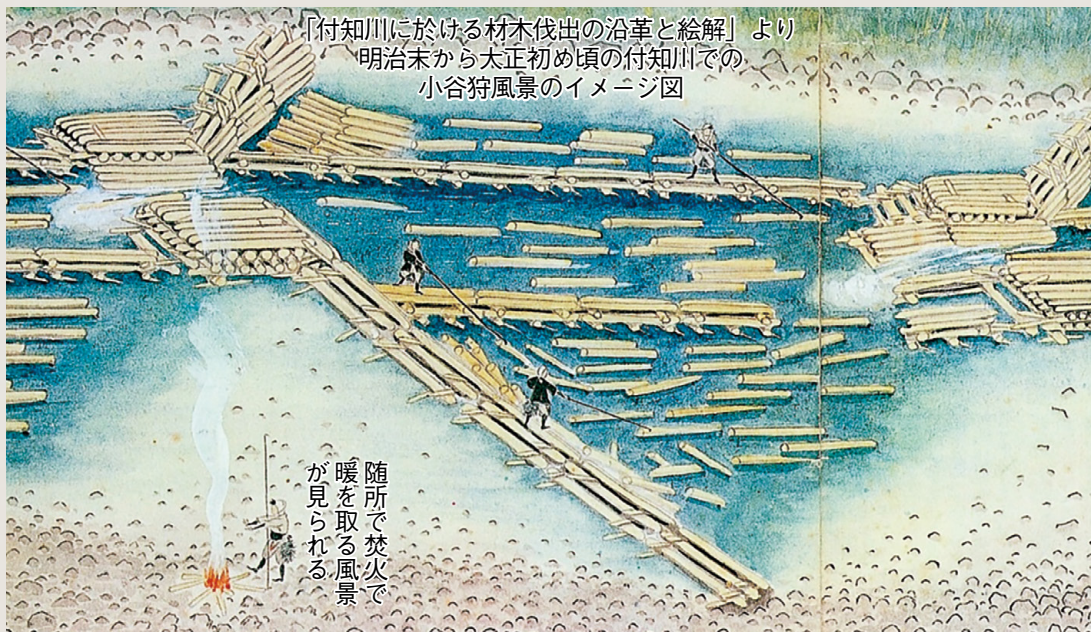
秘蔵写真

今は昔の林業

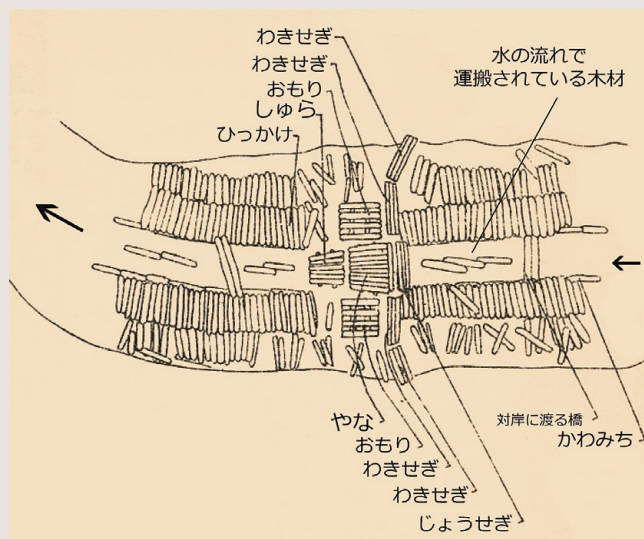
第47回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登



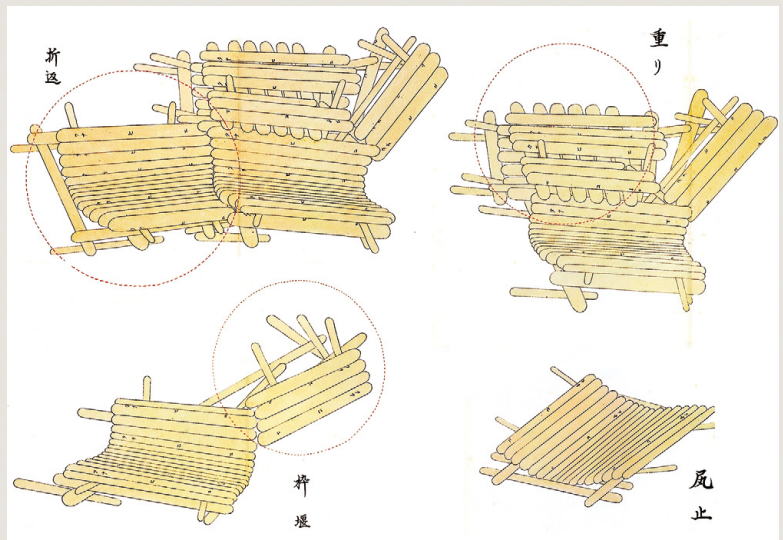
「小谷狩」に用いられる施設は大別して沢や川の水位の高低をコントロールする「堰」と、丸太が散乱して流れないように誘導する「川路」からなります。



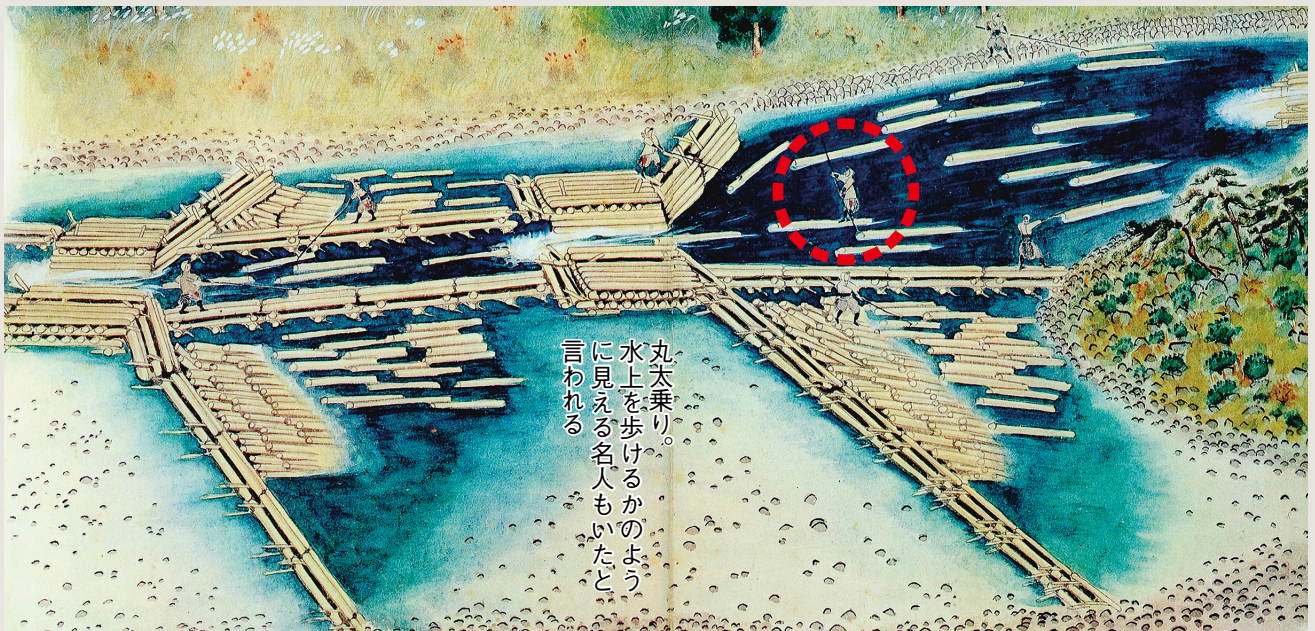
「小谷狩」の俯瞰図
（帝室林野管理局発行
「木曾御料林之造材運材」を元に作成）

設を造ってから一気に運びますが、「小谷狩」の区間は長いので人も運材施設も全区間に分散して配置することはとてもできません。このため運材の先頭の「木鼻役人」が指揮する組が流れてくる木材で運材施設を構築しながら、最後尾の「木尻役人」が指揮する組が運材施設を解体し、全体として徐々に下流へと進んでいきます。

これらは地形や水量に合わせた各部位を組み合わせて造られますが、施設を構築している材料は基本的に運搬している木材そのものです。「木鼻役人」達は次々と流れてくる木材を見極めて独特な構造の運材施設を組んできかねばなりませんし、「木尻役人」達は水の力がかかっている運材施設を安全に解体しなければなりませんから、特に技術優秀な者が選ばれた（第四十六回参照）というのも頷けるところです。



「付知川に於ける材木伐出の沿革と絵解」より
「堰」の各部位の構造図
現場では設計図など無しに経験と勘でこれを組んだ。



大正時代頃の木曽谷における小谷狩風景

急な大雨が少ない晩秋から冬に行われた「小谷狩」ですが沢や川の水量の変化で危険となることになりはなくなり、水の力を利用する運材方法だけにそのコントロールには細心の注意が払われました。

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。
当サイトへは、コードを読み込んでください。



シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【東信森林管理署】

佐久平森林事務所

首席森林官 北沢 伸之

佐久平森林事務所は、長野県東部に位置する佐久市岩村田に所在し、佐久市、南佐久郡の国有林約二二、一三二ヘクタを、森林官を含む三名の職員で管理しています。

南佐久郡は、信州と上州の分水嶺にそびえる船の形をした荒船山をはじめ、甲武信ヶ岳、国師ヶ岳、金峰山、赤岳等の八ヶ岳連峰の山々に囲まれています。夏は涼しく、冬は極寒となり、登山やスキーのほか、特産の高原野菜を購入する観光客の姿も多く見られます。

当事務所の主な業務として、帯状やモザイク状の伐採を行い、林齢や樹種の異なる森林へ誘導するための整備や、立木販売跡地の植



船の形をした荒船山

左側の断崖絶壁が鱧岩、右側の突起した部分は経塚山

付、下刈などの保育作業の監督を行っており、日々、事故の無いよう安全第一で業務を進めています。その他に、貸付地や、広範囲に及ぶ民有地と隣接する境界の確認などを行い国有林の適切な管理に努めています。



宇宙航空研究開発機構（JAXA）の探査機用の通信施設

大曲国有林内にある白田宇宙空間観測所は、大型パラボラアンテナで宇宙探査機と通信する施設となっており、ハレー彗星探査機さきがけ・すいせい、火星探査機のだぞみ、小惑星探査機はやぶさなどとの通信を担ってきました。直径六四メートルの雄大なパラボラアンテナは、一般の方の見学が可能です。また、公表されている情報によると、人気アニメ「名探偵コナン」の劇場版最新作『名探偵コナン 隻眼の残像』（四月十八日公開）でも、長野県が舞台となっており、



浅間山をバックに事務所前にて（筆者中央）

劇中には管内にある国立天文台「野辺山宇宙電波観測所」が描かれています。このように宇宙観測所が多くある当管内の夜空は、満天の星空を楽しめる地域でもあります。

■未来の担い手へのメッセージ

森林づくりは一つの技術だけでなく、広い視野で技術を積み重ね、経験として活かしていく奥深い仕事だと思っています。是非、森林・林業に興味を持っていただき、一緒に「森林づくり」をしていきましょう。

中信高原最大の湿原

七島八島湿原希少個体群保護林

設定目的

当該保護林は、八ヶ岳中信高原国定公園内で最大の湿原であり、昭和三十五年に国の天然記念物「霧ヶ峰湿原植物群落」に指定されています。湿原の上に成立する貴重な植物群落と、周辺の天然林の保護・管理をしています。

地況・林況

霧ヶ峰高原の北西端、標高約一、六三〇メートルに位置しています。深さ八メートルを超える泥炭層が堆積する、推定堆積年数約八千～一万年の高層湿原です。

シリーズ

中部の保護林(第47回)

所在地
長野県諏訪郡下諏訪町



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、コードを読み込んでください。

シリーズ

「私の森語り」

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。

「林業の根幹である苗木づくり」



株式会社前田樹苗園
代表取締役
土谷 由希子

■自己紹介

大学卒業後、木工用機械刃物を製造する会社で事務職（人事・海外営業）として約十二年勤務。その間、三人の子どもに恵まれ、育児短時間勤務の終了を機に退職し、二〇一九年から家業の林業用苗木の生産に携わっています。

■活動内容

弊社では、林業用コンテナ苗木（ヒノキ・スギ）の生産をしています。愛知県内での苗木需要を考慮して、主にヒノキコンテナ苗の生産が中心です。今でこそ、コンテナ苗は一般的になってきましたが、弊社が生産に取り組み始めた二〇一二年当時は、まだコンテナ苗の生産手法が確立さ

れておらず、試行錯誤の連続でした。

現在では、安定的に七割以上の得苗率^{とくひょうりつ}を維持しており、毎年十萬本のコンテナ苗生産を目標として苗木づくりに取り組んでいます。また、「国民病」とも言われる花粉症対策に貢献できるような、花粉の少ない苗木の生産も行っています。さらに、特定母樹^{とくひょう}（在来の系統より成長が早く、花粉量の少ない樹木）と呼ばれる新品種や、新しい肥料などが次々と開発されており、愛知県森林・林業技術センター、愛知県林業種苗協同組合と共同研究を行い、積極的にそれらを取り入れ、より合理的な苗木生産技術の開発に向けた取り組みを行っています。

■弊社が苗木づくりを始め

たきっかけは、私の祖父が、愛知県に林業用苗木の生産者がいなくなることに危機感を持



夏季におけるコンテナ苗への散水

ち、八十二歳の時に生産を始めたこととです。曾祖父の時代には苗木を生産していたものの、数十年間苗木づくりから離れていたにもかかわらず、生産を始めた祖父のバイタリティーには、頭が下がります。その後母、私へと家業が引き継がれて今に至ります。

素人同然の祖父、母、そして私が苗木づくりを続けてこられたのは、全国の生産者の皆さん、愛知県や組合、従業員など、本当に多くの方に支えられてきたからです。祖父が苗木生産を始めて十二年が過ぎました。今までいただいたご恩を少しでもお返しできるよう、視察を積極的に受け入れたり、今までの経験を伝えたりと、苗木生産技術の発展のために少しでも力になれるよう努力しています。

■メッセージ

コンテナ苗づくりは、軽作業が多く、時間的な融通も利くので、高齢者や子育て世代の女性が活躍できる仕事だと思っています。私自身も子育てをしながら苗木生産を続けることができており、このことがもつと世間に広がってほしいと思っています。



圃場の前で従業員とともに

また、林業は「植える↓育てる↓伐って使う↓植える」というサイクルを繰り返しながら森林資源を循環利用する産業であり、そのどこか一つでも欠けたら、資源の循環は進まなくなり、森林の健全性も失われます。「植える」という段階、まさに「林業の根幹」とも言える苗木づくりに携われていることを私は誇りに思っています。引き続き、優良な苗木生産に取り組み、日本の林業に寄与できるよう日々努力を重ねていきます。

■連絡先

愛知県丹羽郡大口町大御堂1-22014
株式会社前田樹苗園





令和七年度から広報誌発行の見直しを行います

広報誌「中部の森林」では、中部森林管理局が行う取組の紹介などを中心に毎月定期的に発行し、あ

わせて局ホームページへも広報誌を掲載してきました。

令和七年度からは、より多くの方に関心を持っていただけるよう誌面の見直しを行う予定です。

現在シリーズで掲載中の「私の森語り」「保護林」「今は昔の林業」「森林官からの便り」については継続を予定しています。新たに、季節にあわせた特集や、森林・林業・木材産業・治山・土木に係る話題なども計画しています。

これまで「各地からの便り」で紹介してきた各署等の取組については、誌面に概要を紹介し、詳細はホームページへ掲載する形への変更を予定しています。また、毎月の発行から二カ月に一回（奇数月を予定）となる見込みです。

広報誌の発行回数は減りますが、ホームページの一層の充実も含め、今後も積極的に情報発信を進めてまいります。

引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



予告 フォトコンテストを実施します

令和四年度に実施した「林業従事者 写真コンテスト(フォトコン)」では、「令和の林業に携わる姿と風景」をテーマに多くの作品を応募いただきました。今回、内容を拡充し、林業従事者の皆さまを含め、より多くの方に参加いただける形での開催を予定しています。詳細につきましては決まり次第、ホームページにてご案内させていただきます。

編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。)

寒い冬を越えた木々や花が春に向けて準備を進めています。2月に咲き始めるネコヤナギの「ふわふわ」に春の兆しを、3月に入り漂う沈丁花の香りに春の歩みを感じます。

「花粉の飛散」により「身をもって」春の訪れを感じる方も多い中ではありますが、冬から春への季節の移り変わりは、柔らかな日差しとあわせて、待ち遠しく感じます。(あくまで「現時点での心持ちです」とつけ加えておきます。)

お知らせのとおり、来年度から広報誌の発行回数や誌面構成が見直しとなります。昨年4月から本欄を担当し、季節への思いなどを掲載してきました。読者のみなさまありがとうございました。引き続き「中部の森林」をよろしくお願いいたします。



令和4年度フォトコン応募作品より

上：立山山麓に集う山人たち

右：ハーベスタによる伐倒（空撮）



中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。



中部森林管理局
ホームページ

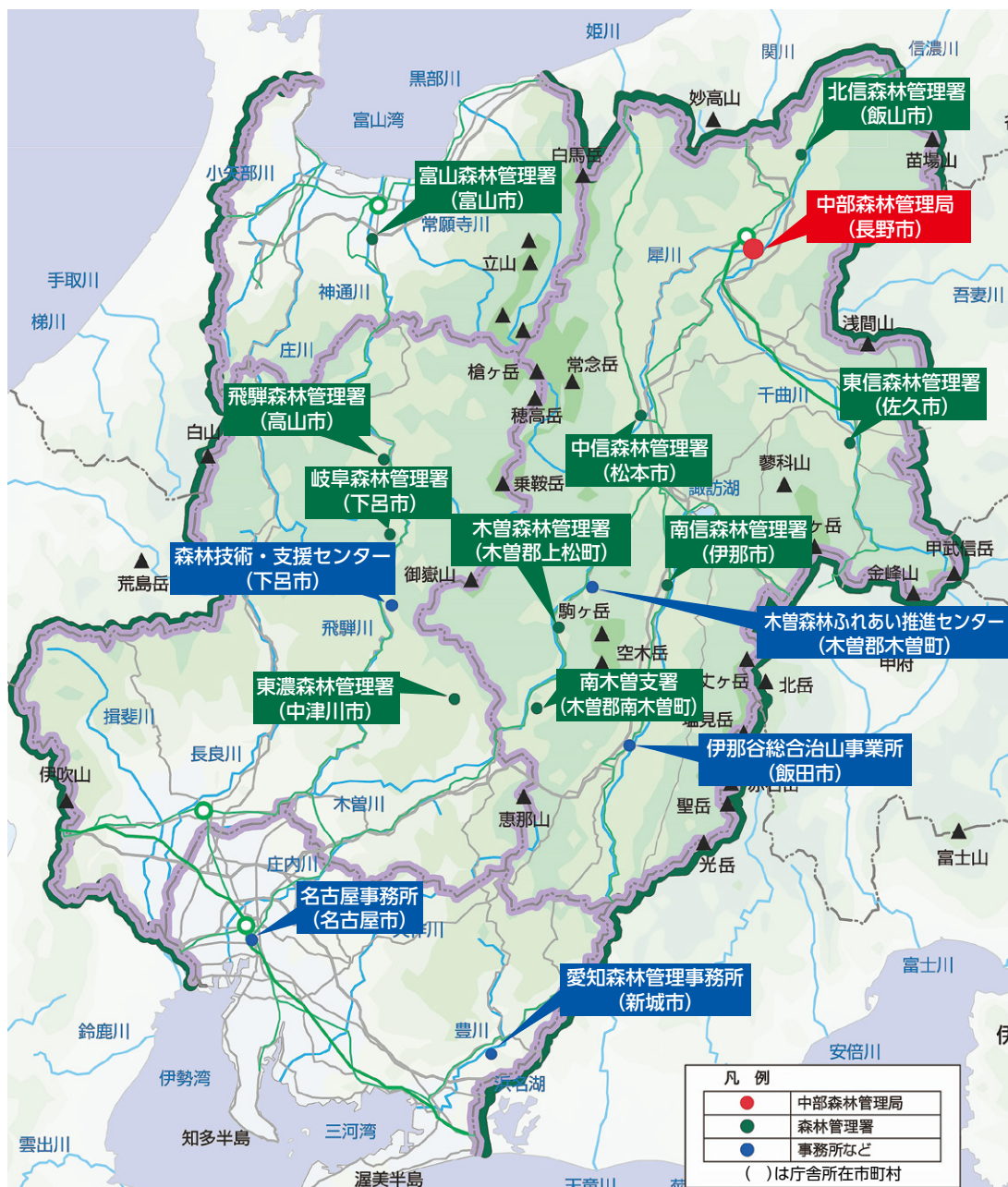


広報
「中部の森林」



用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。



名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市臼田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
Mail：migoro@maff.go.jp
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

